

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4310710613		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	グループホーム くすのき		
所在地	熊本県天草市楠浦町288-9		
自己評価作成日	令和3年7月31日	評価結果市町村受理日	令和3年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「安らぎを与える私の我が家」の理念のもと個々のペースに合わせ生活して頂こうと力を入れています。旬の食べ物を積極的に取り入れ、天草の特性(地産地消)を生かした刺身や魚料理、飲み物もいろいろ揃えており、毎日美味しいご飯を提供できるよう力を入れています。日中は部屋で閉じこもり等ないよう皆さんで楽しく過ごして頂こうと思っています。もし、何かしらの急変事があっても母体の医院との連携ですぐに見てもらえます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者にとって見慣れた海や新鮮な刺身の提供など馴染みの生活が継続して支援されており、明るいリビングでは体操や趣味の塗り絵、職員や気の合った方との談笑の光景にホームの日常が窺える。新管理者は理念「安らぎを与える私の我が家」の持つ意味や重要性を改めて認識し、入居者の「仕事をしたか(欲しい)」の要望に、茶わん拭きなど出来る家事の作業に取り組んでもらったり、一人ひとりに耳を傾け、手を差し伸べることで「ほったらかしにされてない!」と安心してもらえる支援を大切にしていきたいとしている。隣接する母体医療機関をかかり付け医けとされていた方も多く、定期的な受診や緊急時の対応は、家族や職員にとっても安心となっており、日々の健康管理と合わせ、入居者の安らぎのある時間を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつでも目の付く玄関やスタッフルームに常に掲げ、スタッフと共有しながら日々のケアに務めている	海辺のこじんまりとしたホームは、開設以来入居者に笑顔で過ごしてもらうことを共通認識として、理念である“安らぎを与える私の我が家”となるべく努力している。この夏あらたに管理者となった職員は、その責任の重さを受け止めながら職員一丸となって日々少しずつ邁進したいとしている。	入居時や運営推進会議などで理念について啓発する場を持ったり、定期的な評価の機会として理念をかみくだき振り返る事が期待される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	最近では新型コロナにて、母体医院の院長より外出NGが出ていた為、なかなか交流できていなかった。電話にて家族との繋がりは持っていた。地域のボランティアの受け入れもできなかった	ホームは共用デイを併設しており、総勢12名と職員の元気な朝の体操で1日がスタートしている。今年度は外出が制限され地域行事も中止される中ではあったが、窓越しに近隣の人々と声を掛け合い、食材の地元購入や職員が地域の草取り作業に参加するなど、これまでの関係性が薄れないよう配慮している。	長年続いている支援学校との相互交流なども今後期待される場所である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室はなくなりできていない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域の方、地域包括支援センター職員の方に参加してもらい、活動などを報告。評価してもらい、その後スタッフと共有しサービス向上に務めている	社会の情勢を見ながら10月には通常開催が実現している。会議には包括職員、地域代表者、家族等が参加しており、地域ならではの祭りの情報が得られたり、身体拘束適正化委員会ではスピーチロックについて意見が交わされている。数か月続いた書面審議から直接顔を合わせて意見や提案をもらうことで、ホーム運営に更に反映されることが期待される。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告を行っている。情報提供や会議参加の依頼があれば、必要に応じ提供し参加している	本年度は行政との直接的な関わりは少なかったものの、資料配布による集団指導や事故報告、手続き上の相談などが行われている。運営推進会議の議事録及び資料は、行政に提出してホームの現状を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の方針を玄関と廊下に掲げ、定期的に勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の排除宣言を玄関内に掲げ、3か月ごとに適正化委員会を開催して拘束に対する認識とそれらを行わないケアに努めている。身体拘束については運営推進会議の中でも検討し、外部に向けホームの透明性を図ると共に、参加者からの意見や質問に応じながらホーム運営に反映させている。	管理者は交代後の初回の研修に“スピーチロック”をあげ、職員とともに日頃気になっている点や注意すべき事柄について意見を出し合い検討する時間をもっている。入居者への対応、ひいてはケアの質の向上に繋がることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や外部研修に参加し虐待防止について理解を深めている。利用者の体に異変があれば、ケアマネや母体医院へ報告し、常に注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会を行って制度の知識はあるが、活用に関しては具体的に行えていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行っているが家族の思いや利用の対応の形が変わるたび、家族に納得いただくよう説明している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で年2回の家族会等行えないが、年一回の家族アンケートによる意見等、全職員で共有し改善に向け取り組んでいる	入居者の中には「自分の仕事が欲しい」など、出来る事でホーム生活を支えたいとする方もおられ、手先の器用な入居者に座ってできる食材の下ごしらえ(ごぼうのさがき、きびなごの処理、干し柿作り)などを楽しみながら出来る環境を整えている。家族の意見は現在電話などで聞き取り、苦情については運営推進会議報告書に開示するしくみとなっている。	毎年実施している家族アンケートは質問内容などを検討しながら、今後も継続されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見交換を行ったり、日常生活の中で提案や意見がある時は、申し送りノートに上げるようにしている	月の会議や必要によって出勤者のみでその都度行うミーティングなどで意見を出し合い、ケア向上や業務改善に繋いでいる。職員は日々の気付きや入居者の様子を申し送りノートで発信し、情報を共有してケアの統一を図っている。母体医師も時間を見てはホームを訪れており、入居者の生活ぶりに触れる機会をつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ希望休確保に努めたり労働時間通りの就労になるようお互いで協力できる体制ができている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今はコロナ禍でオンライン研修に参加したり、月1回施設内研修を行っている。職員一人ひとり個人差があるが、その人に応じた就労を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今はコロナ禍で同業者と交流する機会が作れない。施設外の勉強会もなくオンラインでの勉強会にできるだけ同じ人にならないよう参加を計画し、取り組んでいる		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	提供された資料に基づき本人様と面会した上で要望、ADL等の確認をし、本人様の意思を尊重した支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	提供された資料、又、入所前の対談の際に、ご家族様の思いや、入所後の支援の方法、説明を行い、その都度変化等があった場合は報告する様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めての入所となる場合は、施設に馴染んで頂くことを第一とし支援を行う。又、本人様はもちろんご家族様も安心出来る日々である様、様子観察を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者と区切りをつけながらも本人様の意思等を会話の中で引き出し尊重し合える関係作りを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスもあり、なかなか面会出来ない中であつたが、常に電話等の機会に本人様の現状や、変化をお伝えし、安心して頂ける関係作りを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスもあり面会制限の指示でなかなか難しい部分もあった。しかし、電話や窓越し面会など出来る範囲での関係継続の支援は行えた	コロナ禍にあって家族との直接面会は制限されたものの電話の声や窓越し面会で安心してもらうよう努めている。入居者に馴染みの手仕事や歌、体操などの室内活動を通じて会話の時間をつくり、海辺ならではの刺身の提供など入居者には嬉しい生活が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置にも配慮し、一人一人の利用者様同士の関わりを尊重した生活が送れる様支援を行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら本人、家族の必要に応じて相談や支援にできる限り努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の会話や表情より本人様の思いを家族に説明し、希望を聞き職員で話しながらケアしている	職員は普段の関わりから入居者に寄り添い、会話の中から声を拾うようにしている。大きな要望やこだわりが見られないからこそ日常生活の充実を図り、家族からの思いと合わせ入居者が笑顔で過ごせる環境作りを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族へのアセスメントをもとに本人の生活歴を考慮しながらサービスの向上に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活をもとに身体レベル、病状観察を行い、変化時はその都度カンファレンスを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の療養上の注意点をもとに職員でカンファレンスを行い、状態に応じたサービス計画書作りに努めている	プランには入居者・家族の意向を優先しながら全職員で関わり、日常会話の中に回想法から過去の記憶や思い出などを自発的に導くなどプランに反映させている。101歳という最高齢の方であっても住環境を整え、他者との関わりやできる力を引き出しながら本人本位のプランとなるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの記録、一般状態の記録を行い、変化時にはカンファレンスを行いプランの見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医や師長の意見を聞き、他事業所との連携を取りながら本人に合った支援の取り組みに心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて入居者の状態や活動等の説明を行い意見を出し合い、地域の消防団や区長さんに協力を依頼し、豊かな暮らしを楽しむ事ができるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度に回診や必要に応じて他科受診を行っている。他科受診の場合家族と一緒に職員も同行し、主治医と連携を取りながら健康管理に努めている	もともと隣接する法人医療機関をかかりつけ医とされた方が殆どであり、引き続き2ヶ月に1度の往診が行われており、家族の信頼や安心となっている。入居者に気になることがあれば、速やかに主治医に報告・相談を行い指示を受けている。また、必要に応じて他科受診の場合は職員も同行し現状を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時は常に24時間の観察相談をし、急変時は速やかに報告、指示を受け対応している。常勤の看護師が勤務し受診後も適切なアドバイスをもらい支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーに詳細は記載しているが、入退院時には医療機関と詳しく情報交換している。入院時には面会に行き、不安のない様に精神的にも支え傾聴し不調なことは病院関係者に伝え治療に専念できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の前段階老衰病状が出現兆候の段階より本人、家族等と話し合いの場を設けている。看取りを行うか医院に入院するか意向を聞き取りしている。終末期には母体の病棟看護師とも情報交換し、応援を得ながら支援している	看取り指針を作成し、入居者の体調に変化が生じた時点で医師と共に家族と方向性などについて話し合う機会を持っている。隣接する医院の存在は、職員にとっても心強く、必要な支援を受けながら取り組んでいる。また、看取りに関する研修会も実施しており、家族の思いに応える支援やホームに出来ることについて再確認している。	今後も日頃の関わりを大切にしながら、入居者や家族の思いに応える支援の継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月定期的に勉強会を行い、急変時や事故時の初期対応マニュアルに沿った対応を行っている。また、昼夜それぞれに緊急対応マニュアルも作成し、目の付くところに掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難マニュアルを作成・掲示し、施設内に非常食を備蓄している。地域の消防団や住民と年2回実践的な避難訓練をホームで行っている	災害時避難マニュアルを作成し、年2回の訓練を実施しており、今年度は11月に2回目を予定している。ホームの近くに消防小屋の建設の話が出されているようであり、更に安心につながるものと思われる。備蓄については非常食を中心に備えている。	地域消防団長とは友好的な関係にあり、今後も近隣者を含め、地域との協力体制の構築に期待したい。また、コンセンツの埃などを含め、引き続き安全チェックの徹底が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の権利・人権を常に意識して適切な言葉使いと対応に努めている	入居者にわかりやすい言葉や選択肢のある声掛け、支援のスピードなどにも配慮して行っている。呼称は基本的に苗字としているが、同姓の入居者があった場合は、下の名でも対応している。居室にトイレが備わっていることで、入居者はそれぞれのペースで排泄が出来ており、入浴介助については同姓への対応にも応じている。	日中は殆んどがリビングで過ごされているが、居室へ入る際は在室の有無に関わらず、ノックや了承の確認が必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の状態に合わせて気持ちに耳を傾け分かりやすい言葉かけや選択肢のある声掛けで自己決定しやすい場面を作るようにしているが、なかなか希望に添えていないという不安な気持ちもある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが個々の生活ペースを大切に支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心掛け、季節や場所に適した衣類等のアドバイスをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を用い、季節に合った献立作りを心掛けている。また、盛り付け等利用者に喜んで頂けるよう工夫している	鮮魚をはじめ地元の食材を取り入れながら季節感のある食事が職員によって調理されている。入居者の箸の進み具合や表情からその日の満足度が伝わっており、職員は食事形態や介助についても個々に応じて対応している。家庭的な雰囲気の中で提供される食事は家族の安心にもつながっている。	職員が検食という形で1名同じものを摂っており、入居者の代弁者として味や量、同じようなメニューが直近で重なっていなかったかなど記録に残すことも良いと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて形態や量を変えて配慮し、楽しく安全に食事ができるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後、口腔ケアを行っている。また、夕食後には義歯を洗浄している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に時間を見ながら声掛け、トイレ誘導している。おむつ使用、訴えのない方は確認している	個々に応じて声掛けや誘導、見守り、自立の継続を支援しており、居室内のトイレや共用トイレを時間帯によって使用されている。夜間はポータブルトイレを使用される方もおられ、掃除を徹底し気持ちよく排泄できるようにしている。排泄用品についても身体状況や昼・夜間と時間帯に応じて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前には牛乳を飲用して頂き、日中も水分補給を促している。レク・体操にも声掛けして取り組んでもらえるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来ない所の背中などは職員が手伝い、他は、個々に沿って自力での支援を促している	入浴は午前中を中心に希望に応じた回数で支援を行っている。自身で体を洗われる方や出来ないところをサポートするなど、個々に応じて対応している。明るい浴室や脱衣所は掃除や整頓を心がけ、ゆっくり入ってもらえるように努めている。菖蒲や柚子風呂の際は職員が持ち寄っており、全員が楽しめる間実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息には状況を見たり尋ねたりして、軽い休息をしてもらう。入眠前は、状態を見ながら口腔ケアを行い、部屋の温度の調整を行って安楽な体勢で安眠してもらう		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬方法を考えながら誤薬のないよう服用時には直接本人様の前で声掛け確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で洗濯物干し、たたみや新聞折りなど、時には小さい菜園での野菜を摘んだりして気分転換等図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスにて外出はほぼ出来ない。が、天気の良い日にはベランダで体操を行っている	感染症への対応から以前のような外出は出来ていないが、ベランダで体操を含めた外気浴の機会を持っている。また、運営推進会議の中で地域の情報を知らされることも多く、今後も外出や交流の機会として会議の重要性を語っている。来月には地域の祭り(えびすまつり)が開催されるようであり、参加できる状況になっていることが願われる。	今後も感染症の状況を見ながら庭先や目の前の海辺までの散歩など出来る外出支援に努めていかれる事を期待したい。また、外出気分を味わえるような旅番組、ビデオ、DVDの視聴なども良いと思われる。検討いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お金は事業所が管理している。物品購入などの希望時はコロナ前は職員と一緒に買い物に行ったり対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話希望あれば都度対応している。家族や友人など外から電話の際は本人と直接話して頂けるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場には花や利用者の作品を展示したり飾りつけをしている。窓の開閉、カーテン・エアコンを利用して快適に過ごせるように心がけている	目の前に馴染みの海を眺めながら過ごせるホームであり、入居者にとっては何よりの居心地の良さにつながっている。感染症への対応から特に、掃除や換気の徹底など衛生管理に努めている。日中はリビングで過ごされる方が殆どであり、特に席の配置など相性なども考慮して決定している。団上がりの畳の間は、現在健康管理が必要な方の休憩スペースなどへの活用が多くなっている。	リビングホールは特に季節のイベントの飾りなどを施している。入居者の習字の作品は直近の物を掲示することで、季節感や家族などが来訪した時も楽しめるものと思われる。取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場にはゆっくり休める畳の間や気の合う利用者同士でテーブルを囲んでいる。外のデッキには椅子を置いてくつろげる場を設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や写真、思い出の品を飾り居心地良く過ごせるよう工夫している	現在は入居前に居室に入り、広さなどの確認を行ってもらえない為、外から見てもらいクロゼットやトイレが備わっていることなどを説明し、質問を受けている。衣類や帽子などこれまで使用されていた物をはじめ、飲みなれた栄養ドリンクなど嗜好品を常備される方もおられるようである。持ち込物品に多少の差はあるものの個々に応じて安心できる居室となるよう取り組んでいる。	コロナ終息後はあらためて家族に居室内の環境を見てもらい、引き続き一緒に居心地の良い環境を整えていかれる事を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体を安全に過ごせるよう手すりなど設置し、バリアフリー設計、身体レベルに応じ、夜間はポータブルトイレを使用してもらうなど自立した生活が遅れるよう工夫している		